

414
A 2211



通計課

本課ハ金穀出納ノ輸贏貨幣楮幣秩祿賞
典祿等都テ金穀ニ關スル計數ヲ調理精
算シテ理財會計ノ要領ヲ提揭シ間々其
論說ヲ作り以テ卿輔ノ覽閱ニ供シ廟謨
ニ資ルヲ掌ル而シテ其管スル所ノ事務
ヲ分テ五部ト爲ス曰審査曰現計曰豫算
曰集算曰結算以テ之ヲ辨治ス

第一部

大正十一年
大隈侯爵邸寄贈

本課各部調理スル所ノ計簿計表ヲ精
査正算シ及ヒ各寮ノ月報ヲ檢覈シ
院へ上呈スルコトヲ掌管ス

第一條 各部清理スル所ノ計表計簿ヲ點檢勾
計スルモノ分テ三節トス

第一節 常ニ全國一切ノ収支出納ニ関スル
モノ其概数ト典制原由トヲ詳明通知シ
テ以テ校讐檢正ノ用ニ具フ

第二節 各部ニテ清理スル計表計簿共總テ

本部ニ交付シテ照査勾稽スヘキモノ必
其原本ニ校讐對算シ之ヲ成規定式ニ照
準シ其差謬誤脱ナキヲ証シ照合ノ印ヲ
押シ各部ニ還付ス
押印式別
冊ニ具ス

第三節 各部計算清理ノ期アルモノ皆其期
ニ先ツテ之ヲ校正シ若シ其期日ニ後ル
、モノアレハ之ヲ課長ニ申告シ凡本課
中計數ニ關スル簿表ハ一切本部ノ照合
ニ洩レサルヲ要ス
各部計算ヲ要スル表簿ハ清理誤脱ナ

キニ注意スル論ナシト雖モ專任ノ之ヲ檢點校正スルニ非レハ或ハ一毫差謬ノ虞ナキヲ保セス是專ラ其勾稽校正スルノ責ニ任スル所以ナリ

第二條 國債寮ノ報告スル所六種ノ簿冊ニ據

リ之ヲ淨寫校正シテ毎月毎半年正院ニ上呈スル事務分テ八節トス

第一節 該寮報告ノ原書ニ據テ清理シ校正

照合ノ印ヲ捺シ上申文案ヲ付シ卿輔ノ覽閱ヲ經テ之ヲ繕寫シテ正院ニ上呈シ

其原本ハ第四部ニ轉付ス故ニ本條以下之ヲ第四部ノ

茶例ニ參看スヘシ

第二節 公債証書類受渡勘定書ハ新旧公債

証書及ヒ継足紙金札引換公債記名証書

秩祿公債証書等紙幣寮製造スルモノヲ

記録寮ニ付シ記録寮編號記注シテ國債

寮ニ送り之ヲ頒布スルモノ毎月八日國

債寮ノ報告ニ據リ之ヲ記録寮ノ月報ニ

照ラシテ清理ス翌月廿五日限リ上呈

第三節 内國債勘定書ハ其新旧債ノ元利記

名証書ノ利金官方公債ノ償還及秋祿債
ノ利金受渡等出納寮ヨリ受ル所ノ数
納月報ニ参照シテ其交付ノ金数ヲ清理
ス
上曰

第四節 外國債勘定書ハ外國新旧公債ヲ償
却スル元金利子口銭ノ数ト其証券ヲ買
上ル高等総テ年々償還ノ全数ヲ算計ス
上曰

第五節 諸貸出勘定書ハ本省理財課ノ主管
スル常用金ヲ以テ年々一般人民ニ貸附

シ之ヲ準備金額中ニ繳納スヘキモノ及
七旧年ノ紙幣石高拜借ト旧藩貸下金紙
幣準備金貸付ト各其未納既納ヲ分テ逐
月清算ス
上曰

以上ノ諸報告ハ旧内課ノ主掌スル所
七年二月命アリテ本寮ノ主務トス其
旧藩貸下ノ金穀全数ハ七年九月ノ命
ニ由テ十月以後之ヲ加載ス

第六節 賞典家祿支給変更明細簿ハ賞典給
家祿一切ノ変更増減ヲ算スルモノ七年

一月ノ現數ヲ充トシテ每半年ノ報告ニ
據リテ之ヲ清理ス社寺遞減給亦之ニ同
シ上呈期日ヲ定メス

第七節 鑄造貨幣損益表ハ每半年造幣寮貨
幣鑄造ノ際生スル所ノ損益ヲ國債寮ニ
於テ通貨ニ抵算シ報告スル者ニ據ラ之
ヲ清理ス

第八節 每半年國債寮ヨリ報告スル處該寮
造幣寮ニ下附シテ新貨ニ鑄造スヘキ礦
質及ニ購収地金ノ原價ヲ各種通貨ニ抵

算シテ其灰吹分析等ニ隨テ増減スル量
目ヲ計出シ之ヲ以テ新貨鑄造ノ數其殘
數共總テ地金ノ量目及ニ各種通貨積リ
裁許ナルヲ算スルモノ
灰吹分析ノ際地金増減スト金ト
各種通貨積リハ原價ニシテ本部之ヲ清理
ス

第三條 紙幣寮ノ報告スル處ニ種ノ簿冊ニ據
リ之ヲ校正淨寫シテ每一月毎三月正院ニ
上呈スル事務ヲ分テ三節トス

第一節 第二條第一節ニ同シ

第二節 各種紙幣流通増減并公債証書製造
勘定書ハ紙幣寮ノ綜理スル所太政官民
部省ノ二幣大藏省関拓使ノ発行兌換証
券旧藩縣管内旗下采邑ニ使行スル措幣
ノ見数及ヒ新紙幣銀行紙幣爲替會社金
券ノ製造発行之ヲ交換廢毀スルモノト
見今流通スルモノトノ全数ヲ算シ旧藩
紙幣準備金ノ原数増減ヲ見ワシ並ニ新
旧公債記名公債証書秭禄公債証書及ヒ
繼足紙等ノ製造授付見数ニ及フ迄前月

ノ者ヲ調理シテ後月廿日限り送付ニ從
ヒ公債証書ノ類ハ記録寮ノ報告ニ參照
比對シテ之ヲ清理ス上呈翌月
廿五日限

第三節 諸印紙其外製造勘定書ハ證券印紙
郵便切手其外蚕種印紙生糸繭真綿印紙
生糸賣買鑑札諸免許鑑札等ノ製造交付
残数等ヲ調理シ每月送付ニ從ヒ之ヲ
郵便切手類ヲ除クノ外租稅寮ノ報告ニ
參計シテ清理ス上呈期日
ヲ定メス
此報告上呈ハ從前本省旧内課ノ掌ル

丙七年二月命シテ本寮ノ主管トス而
シテ印紙鑑札モト紙幣月報中ニ雜
載スト雖日七年一月以後別掲シテ每
三月ノ報告ヲ清理上呈ス

第四條 造幣寮ノ報告スル所各種ノ洋文表ニ

據リ翻譯校正シテ毎月正院ニ上呈スル事

務分テ二節トス

第一節 第二條第一節ニ同シ

第二節 造幣寮出納勘定書ハ造幣寮逐次送

付スル送付期日洋字ノ各種表金銀銅論入
報告同種致

表。金銀銅鑄造高報告。金銀試驗報告。金銀
銅貨幣出納報告。金銀銅損益勘定。金銀銅
計算表。硫酸ニ據リテ之ヲ翻譯スル者
製造局報告。ニ據リテ之ヲ翻譯スル者
シテ該寮ノ地金出納貨幣鑄造出納地金
鎔解損益硫酸ノ會計等ヲ算計清理ス月
限^五上^五呈^五

此報告ハ從前造幣寮ヨリ記録寮ニ送
付シ記録寮元造幣事務棧リニ於テ清
理上呈スルモノ七年三月以降命シテ
之ヲ本寮ノ主管ニ歸スルモノナリ
第五條 記録寮ノ報告スル所二種ノ簿冊ニ據

リ之ヲ淨寫校正シテ毎月正院ニ上呈スル
事務ヲ分テ三節トス

第一節 第二條第一節ニ同シ

第二節 各種公債証書繼足紙受渡勘定書ハ
新旧公債証書ヲ紙幣寮ヨリ領受シ之ヲ
記注シテ國債寮ニ文付スルモノ其受付
ノ全數ト留存數トヲ算シ若シ証書毀損
スルアリテ之ヲ再製シテ旧編號ニ沿リ
記注シテ授付スルモアレハ其ニ毎月
十日限り報告スルニ從之之ヲ紙幣寮ト

國債寮トノ收授數ニ照對シテ清理スル
月

廿五日ヲ
限リ上呈

第三節 証券紙製造受渡勘定書ハ証券界

紙紙幣寮ヨリ收受シテ租稅寮ニ文付ス
ルノ數ト記録寮ノ見存數トヲ毎三月報
告スルニ從ヒ租稅寮收受ノ數ニ參照シ
テ清理スル上呈ノ期日

第六條 租稅寮ノ報告簿冊ニ捺リ之ヲ淨寫校

正シテ毎三月正院ニ上呈スルモノ分テ三

節トス

第一節 第二條第一節ニ同シ

第二節 印紙受渡並収入税勘定書ハ租税寮

ヨリ直ニ人民ニ頒賣シ及ヒ地方ニ頒下

スル諸証券印紙及紙蚕業印紙蚕種生糸繭真綿ノ

物諸鑑札醸造鑑札及ヒ生糸賣買鑑札ノ授付及ヒ之ニ

属スル課税ノ敷其他証印税帳簿証印税並ニ鳥呂子

形証印税〇此ニ条改メノ收入見数ヲ算出

スルモノ毎三月ノ送致ニ從ヒ諸印紙鑑

札ハ紙幣寮界紙ハ記帳寮ノ報告ニ參照

シテ之ヲ清理ス上ニ其限ナシ

此報告ハ旧内課ノ清理上呈スル所七

年二月命シテ本寮主掌ニ同主三

月毎月ノ報告ヲ止メ毎三月ノ上呈ヲ

准ス

以上各寮ノ報告ハ従前多クハ各寮ヨ

リ之ヲ本省内課ニ送付シテ内課之ヲ

正院ニ上呈スルヲ以テ例規トス然レ

ハ是皆統計事務ニ関シ尤早ク審知ス

ヘキモノタルカ故ニ漸次建請改メテ

本寮ニ送致シ本寮ノ照査ヲ經テ之ヲ

大蔵省

正院ニ呈スルヲ准スコレ本寮別ニ各寮ノ報知ヲ需メズシテ其現實ノ数ヲ通知スルヲ得且ツ各寮ノ報告ヲシテ忤裁齋整互ニ相差誤舛觸スルノ虞ナキヲ得セシムルニ便ニスルガ爲ナリ

第七條 取逃寮ノ報状ニ據リ之ヲ校正淨寫シテ卿輔ノ覽閱ニ供スルモノニ節トス

第一節 第二條第一節ニ同シ但内務省上呈テ別ニ正院ニ呈セス

第二節 郵便切手端書紙封皮受渡シ並收入

税勘定書ハ紙幣寮ニ送テ製造スル郵便切手以下取逃寮ニ授付シテ各地ニ領賣スルノ数ト其税入トヲ算出シテ毎三月ノ者後三月ノ終リ毎ニ送付スルニ從ヒ紙幣寮ノ報告ニ参照シテ之ヲ清理ス

第八條 本課各部ノ計表ヲ算シテ年報全書ヲ作り其各部掌管スル事務ノ形状成績ヲ具

陳報上シ且表簿ノ体裁計算ノ方法等既に
ノ得失ヲ考テ以テ之ヲ將來ニ徴シ宜シク
更革登正スヘキ者アレハ各其事由ト意見
トヲ具列セシメ之ヲ統括シテ毎年々報
作リ之ヲ御輔ニ上申スヘキ文案ヲ纂輯シ
九月一日ヲ以テ課長ニ報知スルヲ掌ル

第九條 前條合纂スル所ノ一切計表ヲ刊行公
布スル等ノ事務分テ三節トス以下各部
皆同シ

第一節 各課編纂スル所ノ計表計表ハ毎年
之ヲ集成刊行スルヲ以テ庶務課第一部

ニ付シテ其順序ヲ履行セシム

第二節 計表中若シ之ヲ一時人々公布ス
ヘキ者アレハ又御ノ決裁ヲ仰キ同シク
庶務課ニ付シテ之ヲ刊行セシム

第三節 一般般行ノ書圖及ヒ新聞紙等計數
ノ差誤アル者ハ直ニ之ヲ指示改正セシ
ムルヲ得ヘシ

算ノ年月日ヲ記入スルヲ定例トス是侘日疑窓
 ナカウシノシヲ要スル所以ナリ

第三 簿冊捺印ノ例

御
 輔 統計頭 助 属

年何年何月某日
 統計何属何某

紙幣券各種紙幣債証券書流通増減並諸印紙郵便切手製造勘定簿

統計
 何

太政官札

製造高金四千八百萬兩

内

前月幾日ヲ新紙幣
 交換至焼却高 金何程

何月中日所 金何程

合金何程

内

焼却高 金何程

紙幣券
 在高 金何程

差引流
 通高 金何程

照查正算ト二人
 分チ擔當ノ例

照查正算ト三人
 ニテ擔當ノ例

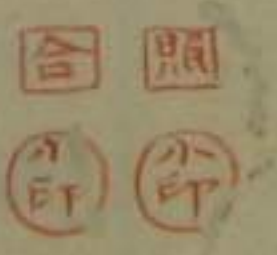
一頁ニ二回以上右計ヲ要スルモノハ
 圓ノ如ク負教中へ捺印ス

第四 計表捺印ノ例

一覽表ノ類員數ヲ横記スルモノ各教尾ニ捺印
 スルヲ定例トス然レモ區畫狹少ナルハ捺印
 セサルニ妨ケナシ尤モ擔当ノ官員調印ノ例ハ
 総テ左ノ圖ノ如クナルヘシ

豎表等右行ニ記載アルモノハ左例ニ捺印
 ス擔当官員一人ノ例簿冊ニ同シ

明治何年何月某日



一 九 二 三 〇 七 八
 一 九 三 三 〇 三
 四 一 九 一 六 九

第五 諸計數ノ原簿ヲ製シテ之ヲ表
出スルハ其原簿ト刻印ノ例

原簿ノ表題ト割捺ス
豎表等右行ニ記載アルモノハ左方ニ割押ス

刻印

第二部

常用準備兩項ノ出納報告ヲ調理シ及
ヒ歲入出現計總計比較等ノ諸表ヲ製
スルヲ掌管ス

第一條 常用準備兩項ノ金穀出納月報ヲ調理

シテ毎月十日正院ニ呈報スル事務分テ六
節ト為ス

第一節 此月報ハ嘗テ出納寮ノ製スル所ハ

者ヲ明治七年一月御ノ命ニ因リテ本寮
ノ擔任トスル者ニシテ常用準備兩項ノ
錢穀甲月一日ノ見在高ト其收支交換ノ
數トヲ算出シ終リニ七月ニ存留スル見
數ヲ舉ケ乙月十日ヲ限リ正院へ上呈ス
ル者ナリ

第二節 此月報ノ體裁タルヤ首メニ前月ノ
殘餘及口本月收入ノ總額ヲ掲ケテ之ニ
交換ノ數ヲ付記シ而シテ本月支出ノ額
ヲ記シ其終リニ翌月ニ殘踰スル額ヲ掲

記ス然リト雖此月報ハ常用ト進
分ツテ各冊トシ常用ハ收入殘餘共唯其
錢穀ノ總額ヲ見ハシ準備ハ其款類洋一
ニ類ノ如ニ隨キヲ云テ金穀各種銀貨金銀塊洋
ノ細目ヲ詳記スルノ別アリ

第三節 前節ニ掲クル常用金穀出納月報ハ
會計年度更正ノ後明治八年ニ至ラハ前
節ノ順序ニ從七月テ甲年乙年ノ二通ヲ作為
シテ毎月定規ノ如ク上呈ス

第四節 是レヲ清理スル原稿ハ各月五日出

納記録ノ二寮及ヒ理財課傳票掛連署シ
テ本省へ進呈シ卿輔面前ニ於テ照校ス
ル出納月計突合表是ナリ此表ヤ卿輔檢
印ヲ經テ検査寮ニ下付シ同寮檢閲了リ
テ毎月七日ヲ期シ我寮ニ送付スルヲ則
トス本寮之ヲ受ケ乃第二節ニ述タル様
式ニ原キ月報ヲ作為シ之ヲ本課第一部
ニ付シテ校讐セシム

第五節

既ニシテ第一部ノ照查ヲ經本部ニ
送付スレハ則チ上呈ノ文案ヲ添へ

ノ閱ニ供シ然ル後繕寫ノ為メ庶務課第
二部ニ付シ同部其正副二本ヲ繕寫シテ
本部ニ返還セハ之ヲ校讐覈算シ既ニシ
テ原稿ト共ニ其期日毎月至リ之ヲ復
タ同部ニ付シテ上呈セシム

第六節

本省文書課往復掛ノ傳達了リテ其
印章ヲ原稿ニ押捺シ返完スレハ即チ復
タ之ヲ卿輔ノ覽閱ニ供シ然ル後之ヲ庶
務課第二部ニ付シテ記録寮ニ送致セシ

ム

本條月報ハ其全月ノ收支一切出納ノ
現數ヲ算出スル者ニシテ直ニ之ヲ正
院ニ上呈シ後々原稿ヲ以テ御輔ノ閱
ニ呈スルハ一ツハ時日ノ遷延ヲ慮リ
一ツハ根拠調理スル原本既ニ出納記
録ノ二寮傳票掛連署シテ御輔面前ニ
於テ對照シ其檢印アルモノナルヲ以
テ也

第二條

常用準備兩項ノ金穀全年ヲ分テ四期
トシ毎三月勘定帳及ヒ仕譯牒ヲ清理
御

輔ノ覽閱ヲ經四月一月期ヲ定メテ
上呈スル事務ヲ分テ四節ト為ス

第一節

此簿冊ハ毎月出納金穀各種ノ科目
類別ヲ詳明開載スルモノニシテ出納記
録兩寮ヨリ送移スル所ノ前月出納日計
簿ト傳票回議原書トヲ對照檢算シ豫算
表ノ科目ヲ照シテ類抄シ先ツ本課第一
部ノ檢閲ヲ經テ毎月清理ナルニ隨ヒ寮
頭ノ閱ニ供シ置キ既ニシテ租稅寮毎三
月計簿檢査寮ヨリ回致ヲ得曩ニ類抄セ

シモ、ト對照查覈シ收入ノ科目ニ就テ
合離併別ヲ正シ毎三月ヲ合算シテ勘定
牒ノ稿本ヲ作り副ルニ仕譯書ニ以テシ
再ニ本課第一部ニ致シテ照合ノ印ヲ徵
ス

但租稅寮所製ノ計簿ハ毎三月本省へ
上呈假令ハ會計年首三月ケ限ノ檢査
寮ニ下附アリ同寮於テ之ヲ檢閲シ此
其
限ヲ五日了リテ本寮ニ送付大約
其スル
モ、トナ蓋シ諸稅ノ收入傳票ヲ記ル

ト雖、凡實際謬誤ナキ能ハス故ニ租稅
寮ニ於テ毎三月間之ヲ修理シテ正ニ
取セシム此レ乃チ專ラニ出納記録兩
寮ノ計簿ニ準據セシテ該寮ノ正算
ニ待ツ所以ナリ謬誤調査法別
冊ニ具載ス

第二節 勘定帳ノ体裁タルヤ各縣支出ノ如
キ單ニ總額ノミヲ掲ケ之ヲ縷折セス故
ニ別ニ仕譯書ヲ製シ各縣ノ區別ヲ明ニ
シ支出ノ金數ヲ類纂ニ準備ハ各廳ヲ分
タスト雖、凡其分科ニ因テ收支ノ金數ヲ

類別シ而シテ常用準備共ニ毎月分ツテ
各一冊トシテ以テ勘定帳ニ添ユ故ニ合
シテハ勘定帳トナリ分レテハ此仕譯書
トナリ其計數總額ニ至テハ彼此出入マ
ルヲナキヤ辨ヲ待タサルナリ

第三節

勘定帳及仕譯書共ニ本課第一部ノ

校閲ヲ經テ之ヲ謄寫シ上申案ヲ添ヘ庶
務課第二部ニ付シテ檢査察ニ送致セシ
メ同察査點シテ御輔ニ呈シ其覽閱了リ
テ本察ニ付附テ之ヲ乃チ之ヲ淨寫爲

メ庶務課第二部ニ付シ同部寫了ツテ下
部ニ返還セハ之ヲ校讐檢算シ其原本ヲ
併セテ再々同部ニ付シ正院へ上呈セシ
ム其原本ヲ記録察ニ送移スルノ順序ハ
前條第六節ト同シ

第四節

會計年度更正以後明治八年七月ハ常用金

穀ノ報告甲年乙年ノ二通ヲ作為シ定規
ノ如ク上呈ス

本條簿冊ノ原據トスル者ハ出納察日
計簿ヲ類抄シテ調理スヘキ者タリト

雖此日計簿甲月ノモノ乙月ノ中旬
ニ至ラカレハ之ヲ交付セホルヲ以テ
或ハ處務ノ遲緩ニ至ルヲ恐ル是ヲ以
姑ク本省理財課傳票掛ノ日計簿ノ送
付ヲ得之ヲ根據トシテ漸次調理ス而
ノ出納寮傳票掛ノ各日計簿ナル者ハ
其科目ノ類別或ハ精微ヲ盡カ、ルモ
ノアルヲ以テ又必ス之ヲ記録寮送付
ノ傳票回議原書ニ徴シ其事由緣故ヲ
查覈詳報スルヲ要ス

第三條

常用準備金數現計總計ニ表及ヒ前年

比較表ヲ製シ毎年七月上旬ヲ以テ御輔ノ

覽閱ニ供スルノ事務ヲ分テ五節ト為ス

第一節 現計表ヲ製スルハ毎年七月ニ至リ

前二條ノ月報及ヒ勘定帳ニ原キ全年計

年度ニシテ前年七月ノ收出ヲ綜核シ勘

ヨリ翌年六月迄ヲ云ノ收出ヲ綜核シ勘

定帳ノ例ヲ逐テ各款ノ科目ヲ開列シ甲

年乙年ヲ分テ稿本ヲ作りテ本課第一部

ニ付シ檢閲了テ庶務課第三部製表ニ致

シテ表ヲ作り御輔ノ參閱ニ供ス表様別

第二節

前節現計表ヲ作ルマ故意取捨スル
ヲ要セス實際收支ノ景状ニ隨ヒ各款ノ
科目一モ漏スナカハシ然レモ其收
支中出入重複ノモ、アル片ハ其歳入モ
真ノ歳入ニ非ス其歳出モ真ノ歳出ニ非
ス故ニ務テ之ヲ審列シ淘汰清滌以テ純
然タル收支ノ額ヲ算出シ別ニ一表ヲ製
シテ副表トスヘシ

但本節副表ナルモノハ乃チ本課第三
部ニ於テ畧定決算表ヲ製スル原據

スル為ニ之ヲ製ス將第三部ノ毎年

初一季即七月ヨリ
九月ニ至ル會計表ヲ作ルマ本部

ノ計算ニ準據スヘキヲ以テ本部ニ於テ

ハ為メニ淘汰法ヲ以テ初一季ノ現計

表モ亦之ヲ製作スヘシ

第三節

總計表ハ甲乙二年ヲ總核スル者ナ

リ故ニ毎年七月ニ至リ前年作ル所ノ現

計表ト本年作ル所ノ現計表トヲ併算合

計シテ以テ甲部ハ明治九年七月製スル
乙部ハ明治十年七月

月製スル乙部ヲ以テ現計表ト同年七月完
結合計スルルヲ云

シ 稿表ヲ作ル以下前一節ニ同シ
但該表ノ如キハ第二節淘汰法ヲ用ヒ
テ純數ノミヲ以テ作為スベキモノト
ス

第四節

前節總計表ヲ製スルヤ其法納出ノ
二部ニ大別シ各種ノ科目ニ隨ヒ其納出
スル金穀ヲ列載シテ之ヲ合計シ又通貨
ノ數ヲ付シ而シテ後ソノ出入ノ數ヲ比
較シ其過欠ヲ算出スヘシ

第五節

既ニシテ比較表ヲ製スルハ前年作

ル所ノ總計表ヲ以テ後年作ル所ノ總計
表ト比較算計シテ増減盈縮ヲ詳掲シ每
年十月稿表ヲ作為シ譬ハ明治十年所
製ノ總計表ト同年
一年所製ノ總計表ト同年 本課第一部
十月ニ至リ計算スルヲ云 二付シ檢閲ヲ經而シテ後本年作ル所ノ
總計表ト併セテ御輔ノ參閱ニ供スル成
規ノ如クス

本條現計總計比較ノ諸表ハ專ラ前年
出納一切ノ景況ヲ掲記シテ御輔ノ參
考ニ供シ或ハ之ヲ年報書中ニ掲載シ

以テ量為盈縮ノ要務ニ便スル者ナレ
ハ本部意ヲ之ニ注キ務メテ明晰了易
ナランコトヲ要ス

第四條

常用準備二項ノ金穀出納ニ關スル事
務改正更革其他一切ノ規程條例等ニ就テ
回議アル者ハ一一意見ヲ批シ併セテ之ヲ
寫録シテ他日ノ參照ニ備フ

第五條

以上各種ノ計表ヲ纂修シテ本部年報
ノ全書ヲ作り意見ヲ具列シテ本課第一部
ニ付ス

第六條

毎年合纂スル一切ノ計表ヲ刊行公布
スル等ハ本課第一部ノ第九條ニ同シ

第三部

歳入出豫算會計表及ヒ會計決算表ヲ調理輯纂スルヲ掌管ス

第一條 歳入歳出ノ綜計常用準備收支ノ預算

會計表ヲ製スルノ事務ヲ分テ七節トス

第一節 明治八年第三十六号ノ布告ニ准シ

官省使府縣ヨリ本省ニ呈送スル所ノ該年七月ヨリ明年六月三十日ニ至ル一周

年間ニ收入支出スヘキ概算ヲ會計スル
簿冊ヲ本省ヨリ検査寮ニ下附シ各其當
否ヲ精覈セシメ
限リ之ヲ本
寮ニ附ス

第二節 前節概計ノ簿冊ニ據ツテ常用ノ收
支ニ属スル者ト準備ノ出納ニ算入スヘ
キ者トヲ區別シ之ヲ分算通計シ以テ豫
算會計表ヲ製ス 表様別ニ具ス

第三節 表ノ體制ハ常用歲入出ノ條款ヲ分
之ヲ具載スル者ヲ第一表トシ準備ノ

ハ支ヲ開列スル者ヲ第二表トシ終リニ
國債紙幣ノ二表ヲ付ス

第四節 連年會計ノ虛實盈絀及收入支出條
款中本年ノ計算前後各年ニ異ナル事由
ヲレハ其然ル所以ノ故ヲ辨折シテ例言
ヲ作り卷首ニ掲載シ并ニ其率算勾稽ノ
主旨ヲ示ス

第五節 各款毎ニ前年ノ確定決算表ヲ以テ
比較シ其増減ヲ算出シ之ヲ其條下ニ具
載ス

第六節 國債、償還及其殘額紙幣交換、數
其流用、額見數、如キモ亦檢査察ニ於
テ精覈セシ毎年六月ノ現數ヲ根據トシ
第一部ニ於テ調理スル所ノ月報ニ對校シ
テ之ヲ開列ス

第七節

此表ハ十二月十日ヲ期シ本省コレ
ヲ正院ニ上呈スベキカ為ニ豫シメ

ヲ以テ清理完了シテ之ヲ課長ニ呈
ス之ヲ第一部ニ付シテ照合校對セシメ
大證印ヲ徴シテ察頭ノ檢閱ニ具ヘ察頭

檢閱了テ淨寫既ニ成リ十一月十日ヲ
期シ察頭之ヲ御輔ニ呈ス

本條豫算會計表ハモト毎年一月ヨリ
十二月ニ至ル出入一切、綜計ヲ豫算
概計スルモノニシテ役前御輔臨時ノ
特命ニ因テ之ヲ修成スルモノトス然
ルヲ七年一月本察ノ建請ニ准シ尔後
一ニ本察ノ主掌トシ更ニ八年以降會
計ノ年度ヲ釐革シ一切收支ノ區域界
限ヲ分画シ判然混淆セカラシム之ヲ

因テ始メテ本年七月ヨリ明年六月三
 十日ニ至ルヲ一周年期トシ尔後官省
 府縣ヲシテ皆此成規ヲ履行セシム
前
 作ル所ノ豫算表ハ七年十一月ニ至リ更ニ八月一
 ヲ以テ七年十一月ニ至ル半年ノ豫算表ヲ製
 シテ八月一月ニ至ル半年ノ豫算表ヲ製
 ヲ七月ヨリ九年六月ニ至ル豫算表
 乃チ此成規ヲ確守シテ九年七月ヨリ
 十年六月ニ至ルノ歳出入ヲ豫算スル
 八八年十二月ニ於テシ明治五年以降
 七年以前三ケ年ノ歳入ヲ平均シテ歳

入ヲ概定シ因テ以其後年ノ数ヲ算定
ス
今後年ヲ累ルノ多キニ至テハ前五
年後歳入出ヲ通算平均スルヲ例トス
 之ヲ年度改正後一周年豫算表編成ノ
 起元トス尔後此年度ヲ逐々順次算計
 永年遵守スルヲ要ス

第二條

會計年度一周間ヲ分テ四季トシ
前年七月
 八月九月ヲ初季トシ十月十一月十二月ヲ
 二季トシ後年一月二月三月ヲ三季トシ四
 ヲ月五月六月ヲ初季ノ收支現數ヲ算出シテ
 之ヲ初メ製スル所ノ豫算表ニ比算シ又其
 既ニ経過スル初季ノ實數ヲ根據トシテ後

三季ノ概數ヲ率算シテ計表ヲ製スルノ事
務分テ三節トス

第一節 前年製スル所ノ豫算表ヲ以テ尚之
ヲ實際ニ參看シテ其途處ナキヤ否ヲ審
覈セシカ為ニ七月ヨリ九月ニ至ル第二
部ノ每三月表ニ據リ此一季ノ會計表ヲ
作ル

第二節 前節初一季ノ出入見數ヲ原據トシ
更ニ第二季以下終季ニ至ルノ三季會計
表ヲ調製シ以テ會計ヲ酌量スルノ參據

ニ備フ

第三節 右初一季及後三季ノ二表既ニ成テ
後年ノ豫算表ト同シク御輔ニ呈閱スル
ト前條第八節ニ同シ

第三條 前年各地方貢納米穀其他ノ折價ハ本
年一月三十一日ヲ期シ租稅察各地集成纂
定ノ報知ヲ待テ歲入金額ノ全數ヲ算出シ
之ヲ第一條既ニ上呈スル所ノ豫算歲入ノ
數ニ比較シ其贏餘不足ヲ具上シテ御輔ノ
參考ニ備フ

甲年一月ヨリ十二月ニ至ル米金一切ノ
收入ハ之ヲ甲年七月ヨリ乙年六月ニ至
ル會計一周年ノ支出ニ充ルモ、トス然
ル其始メ豫算表ヲ製スルノ時ニ方テハ
米價ノ高低ヲ前知スルヲ得ハルヲ以
テ乙年一月時價報告ノ後ニ至テ之レカ
金額ヲ定算シ以テ會計ノ考攷ニ備フル
ナリ

第四條 嚮年呈スル所ノ豫算會計表ノ條款ヲ
照シ本課第二部製スル所ノ現計副表ニ參

ハ三ニ

據シ其實際收支ノ見數ニ比較シテ増減ヲ
見ハシ畧定決算表ヲ製シテ卿輔ノ覽閱ニ
供シ又二閱年ノ後會計一周年ノ收支完結
シテ檢査寮修成スル所ノ決算表ニ據テ再
ヒ比較算定スルノ事務分テ四節トス

第一節 會計年度一周シテ其年六月後ニ至リ
第二部調理スル現計副表ニ開載セル一
週間ノ收支現數ヲ以テ前ノ會計豫算表
ニ比較シ十月三十一日ヲ限リ之ヲ卿輔
ノ覽閱ニ供スコレヲ畧定決算表ト云

第二節 二閱年ノ後前一期ノ收支完結スル
ヲ以テ検査寮修成スル所ノ會計決算表
ニ據リ豫算表ノ條款ヲ照シ對比算出シ
テ其増減ヲ見ハシ十月三十一日ヲ限リ
卿輔ノ覽閱ニ供スコレヲ確定決算表ト
云

第三節 前節決算比較表ハ又第一條第六節
ニ掲ケタル後年豫算表各款ノ比算ニ供
スヘキ者トス

第四節 前節三表ハ毎年十二月十日ヲ限リ

正院ニ上呈スルヲ期ス故ニ期ニ先タテ
テコレヲ清理シ卿輔ニ供閱スル順序第
一條第七節ニ同シ

毎年製スル所ノ確定決算表ノ如キハ
正院ヨリ之ヲ普ク公布スヘキニ由リ
最モ注意シ毫モ謬誤ナカラシムルヲ
要ス

第五條 以上列載スル所ノ本部製表ノ年序左
ノ如シ

明治八年十二月九年七月ヨリ十年ノ六

月ニ至ル一周年ノ豫算表ヲ製ス

第一條ニ見ユ

明治九年十一月此年七月ヨリ九月ニ至ル初一季會計表ヲ作り又同時ニ後三季ノ見計ヲ推算シ更ニ一表ヲ製ス

第二條ニ見ユ

明治十年一月九年ノ貢納米穀ノ折價ヲ得テ其金額ヲ算出シ以テ前年豫算ノ當否ヲ表示ス

第三條ニ見ユ

明治十年六月ニ至テ一周期年始テ完キヲ以テ其現出入ヲ算定シテ畧定決算表ヲ作ル

第四條ニ見ユ

第十一年六月ニ至リテ九年七月ヨリ十年六月ニ至ルノ收支悉ク完了スルヲ以テ此年十月本課第五部ニ送付スル検査寮ノ決算表ニ據テ八年作ル所ノ豫算表ニ比算シテ確定決算表ヲ製ス而シテ此表マ十二年七月ヨリ十三年ノ六月ニ至

ルノ豫算表ヲ製スルニ方リ又其比算ノ
用ニ供スヘキ者ナリ

同 上

右假リニ明治八年以下ノ年次ヲ設ケテ
初メニ豫算表ヲ製スルヨリ終リニ決算
表ヲ作ルニ至ルノ年度期會ヲ指示スモ
ノトス尔後逐年此順序ヲ逐ヒ終始循環
シテ逐次完具スルヲ要スルナリ

第六條

以上各種ノ計表ハ毎一年之ヲ纂修シ
テ本部年報ノ全書ヲ作り以テ課長ニ報知

スル第二部ノ第五條ニ同シ

第七條

毎年合纂スル一切ノ計表ヲ刊行公布
スル等ハ本課第一部ノ第九條ニ同シ

第四部

貨幣紙鈔諸印紙内外國債貸付及準備或ハ扶祿賞典祿社寺遮減給會社準備等ノ
出納増減ヲ集算表出スルヲ掌管ス

第一條 國債寮ノ報告ニ據リ每三月毎一年ニ

國債一覽表公債証書一覽表ヲ製シテ卿輔ノ參閱ニ供スル事務分ニハ節トス表ノ撮式ハ谷

種條ヲ逐テ別冊ニ具載ス

第一節 該寮ノ報告本課第一部ニ於テ之ヲ

清理シ正院ニ上呈スルノ後事務詳ニ第一節條例ニ見

本部其原書ヲ受テ逐月報告類纂ニ登

記シ期ニ先ツテ計簿ヲ製シ先ツ第一部

ノ照會ヲ經テ差謬ナキヲ証シ庶務課第

三部ニ付シテ計表ヲ作ラシム既ニシテ

正副二本成レハ再ヒコレヲ第一部ノ校

正ニ徴シ其正本ハ回議ヲ付シテ卿輔ノ

覽閱ニ供シ之ヲ記録寮ノ底本トシ其副

本ハ庶務課ニ存留シテ後來ノ參誓ニ備

フ以下製表呈閱ノ順序皆同シ毎三月及
毎半年

毎一年ノ有共ニ三月ヲ經テ之ヲ清理上
呈スルヲ則トス其年期ヲ定ムル皆會計
年度ニ從テ之ヲ
修製ス以下同シ

第二節 外國ノ新旧公債ハ各其償還ノ年期

ヲ訂シ漸次還附スルモノニシテ其母金

利子口錢ヲ算計ス

第三節 外國公債ノ証券ヲ購收シテ以テ我

所有トスルモノ亦其數ト價トヲ算計ス

第四節 旧藩各種ノ公債ハ新旧ノ二項ヲ分

チ新トハ二十五年ヲ期シ四朱ノ利子ヲ

付シテ償完スルモノ旧トハ五十年ヲ期
シテ完償利子ナキモノニシテ其債主ニ
與フル証券ハ轉買ヲ許スヲ例トス因テ
其母金ノ總計ト利子ノ分賦等ヲ算計ス
第五節 前節証券ハ每券二十五圓以上トス
故ニ其數ニ充サルモノハ母子ヲ併セラ
一時ニ償還スル便方ヲ設ケ以テ之ヲ消
シ又政府皇族ノ私債ノ如キモ一時償完
スルモノニ屬ス因テ共ニ其償還未了ノ
數ヲ算出ス

第六節

金札引換公債証券ナルモノハ記名

ト利札トノ二種アリテ記名トハ其債主
ヲ証券ニ記入スルモノ利札トハ債主ノ

名ヲ記サスシテ他ニ轉賣スルヲ許ス

モノヲ人民兌換ヲ請フ者アレハ其好ニ

從ヒ此二種証券ヲ作りテ之ニ抵換シ年

限ヲ期シテ金貨ノ引換ヲ約シ年々六朱

ノ利子ヲ下賦スルモノニシテ其二種ヲ

分テ金額利子ヲ算計ス

第七節

秩祿公債トハ家祿賞典祿等奉還ヲ

請フ者ハ之ヲ許シ後六年ノ給與金額ヲ

一時ニ下附シ其半ヲ公債証書トシ抽券ノ法ヲ設ケ漸次還償スルモノニシテ未タ還了セサルモノハ八厘ノ利子ヲ給ス因テ其金額及ヒ証書ノ多少利子ノ増減ヲ算出ス

第八節

以上各種公債証書ノ數ハ紙幣寮ノ製造數ニ原シ記録寮ノ記注ト國債寮ノ授付數トヲ參互對比シテ公債証書一覽表ヲ製ス

國ノ内外債アルハ理財ノ官尤注意シ

速ニ償却ノ方法ヲ設ケサルヘシテサ
ルモノトス而シテ其母子ノ額ニ至テハ常ニ參誓シテ其緩急ヲ圖リ其溢耗ヲ照シ以テ他ノ財計ヲ盈縮ニ因テ以テ之カ措置經畫ヲナサバルヘカラス故ニ各寮ノ報知ヲ參誓シ一覽表ヲ製上シテ以テ其考勅ニ備フ

第二條

紙幣寮ノ報告ニ據テ每三月毎一年紙幣一覽表ヲ製シテ卿輔ノ參閱ニ供スル事務分テ三節トス

第一節 第一條第一節 = 同シ

第二節 各種流通ノ紙幣ハ維新以降ノ頒布

= 係ルモノハ太政官札民部省札大藏省

開拓使兌換証券及ヒ銀行發兌紙幣ニシ

テ別ニ旧藩縣管下及ヒ幕府麾下士ノ采

邑ニ行布スルモノアリ後々新紙幣ヲ製

作シ其成ニ隨テ之ヲ交換廢毀スルヲ以

テ其既ニ廢爛スルノ數ト方今流通スル

ノ全數トヲ算計閣載シテ乾表トス

第三節 官省札ノ公債証券ニ兌換スルモノ

ハ
〇

ハ銀行ト人民トノ二類ヲ分テ其上納紙

幣ノ各種ヲ開列シ若シ其上納ノ内ニ於

テ新紙幣及ヒ貨幣ノ類旧紙幣ニ兌換ス

ヘキモノアレハ其交換ノ數ヲ掲出シ共

ニ國債寮ノ報告ニ徴シ之ヲ算計シテ押

表トス

紙幣ノ内國ニ流通スルハ固ヨリ政府

ノ人民ニ負スル公債ニシテ齊シク他

ノ公債ト異ナルヲナシ故ニ本寮ノ表

ヲ製スル前條國債表中ニ掲クル新旧

大藏省

内外負債ノ全數ニ此紙幣流通ノ總數
ヲ併セテ表出シ以テ我政府公債ノ全
額トス而シテ其紙幣流通ノ全數ヲ以
テ國債ニ合算スルノ際一ノ注意スヘ
キモノアリ何者金札引換公債證書ヲ
以テ請求シ及ヒ開拓使ヨリ逐年繳納
スルニ若シ新貨及ヒ新鈔ヲ以テスル
者アハ直チニ之ヲ廢毀ニ付スヘカ
ラス故ニ暫ク之ヲ國債出納ノ兩寮ニ
存置シテ但札交換ノ日ヲ待ツ國

債ヲ算出スルニ臨ミ其既ニ存置スル
ノ額ヲ以テ旧札ノ數ヲ除シ其餘ヲ以
テ國債見實ノ真數トスヘシ其他若シ
出納國債兩寮ノ金銀銅貨及ヒ洋銀等
ヲ以テ新札ニ換用スルモノアルカ如
キハ一時ノ流轉且其抵当物アルヲ以
テ之ヲ國債ニ算入セス豫算會計表ニ
掲クル所ノモノモ亦此例規ニ從フ者
トス

第三條 每一年各國立銀行計表爲換會社金券

及洋銀券一覽表ヲ製シテ卿輔ニ供閱スル
ノ事務ヲ分テ四節トス

第一節 銀行ノ紙幣ハ元各銀行ヨリ抵納ス
ル金ヲ引換公債証書ノ數ヲ照シ其銀行
資金全數十分ノ六ヲ準トシテ紙幣ノ發
行ヲ特許スルヲ例トス故ニ其發行ノ數
ハ銀行實際報告ニ據テ之ヲ算出ス

第二節 各銀行ノ盛衰景况同シク每半年ノ
銀行實際報告ニ徴シテ其資本金準備金
ノ増減持主ノ轉換公債証書價值ノ昂低

等ヲ詳悉具列ス

第三節 旧横濱爲換會社ニ發行スル洋銀券
ハ爲換會社ヲ廢スル時轉シテ第二國
立銀行ノ所管ニ歸スルヲ以テ之ヲ計算
スル銀行紙幣ニ同シ

第四節 東西京大坂横濱新潟神戸大津敦賀
各地 設ケシ所ノ爲換會社金券ハ方今
既ニ廢止交換ノ令アルヲ以テ唯其未了
ノ數ヲ算出シ每三月之ヲ具上ス若其交
換既ニ完キニ及テハ復此製表ヲ要セス

第四條 造幣寮ノ報告ニ據テ輸入地金種類表
成貨発行高表損益會計表毎三月毎一年
之ヲ製シ除置成貨試験表硫酸製造賣却表
、毎年、次之ヲ製シテ卿輔ノ覽閱ニ供ス
ル事務分テ六節トス

第一節 第一條第一節ニ同シ

第二節 凡金銀銅ノ地金ハ政府ト内地人民
外國人民支那人民ノ四項ヲ分テ其各人
民ヨリ輸入スル量幾オンスヲ算出シ
ハ政府ノ輸入ニ限リ其地金ノ種類ハ内地日貨幣外

國貨幣品位未定精製銀塊等ヲ區別シテ
表出ス

第三節 造幣寮開置以降貨幣鑄造ノ總計ト

其中ニ於テ試験ニ供スル者ヲ除キ之ヲ
発行シテ政府ト三井組東洋銀行ニ付送
スル者ヲ區分算出ス

第四節 貨幣製造ノ際ニ生スル損益損トハ
鎔解滅燒生滅秤量差等ノ耗滅益トハ秤
量差又ハ試験分拆鑄造ノ費用ヲ人民ニ
リ收入スルモノニシテ之ヲ類別算出ス

第五節

同寮硫酸局ニ於テ製スル所ノ硫酸

其初製再製ノ秤量費用トシテ額賣シ

得ル所ノ益金トシテ比較シテ表出シ毎年

一次シテ供閱ス期限ノ定メナシ

第六節

鑄造貨幣中ヨリ除置スル供試貨幣

ハ大藏卿臨寮ノ時之ヲ分拆シ其公差ヲ

試験スルモノニシテ其各種ノ差減ヲ表

出スルモノノ毎年一次之ヲ供閱ス期限ノ

定メナシ

第五條

毎一年準備金中ヨリ支給スル造幣鑛

山鐵道電信製作五寮ノ諸經費收入損益比

較表ヲ製シテ卿輔ノ參閱ニ供スル事務ヲ

分テ二節トス

第一節

準備金第一類ヨリ第四類ニ至ル其

出納科目ヲ詳悉通知シ其成規ニ照シテ

第二部製スル所ノ準備金出納月報ニ據

リ之ヲ登載シテ其部分科目ヲ分明ニ錯

雜ナカラシメテ備考トス

第二節

本條五寮ノ諸經費ハ準備金中ヨリ

一旦之ヲ支給スルモノニシテ今後終ニ

其收益ヲ以テ償還補納スヘキカ故ニ第
五部清理ノ表簿ニ據リ其損益ヲ比較
テ明治七年以前ハ每一年八年以後ハ每
半年計簿ヲ製シ以下第一條第一節ニ
同シ

第六條 國債寮ノ報告ニ據テ每半年毎一年貸

附金穀一覽表ヲ製シ卿輔ノ覽閱ニ供スル

事務ヲ分テ五節トス

第一節 第一條第一節ニ同シ

第二節 本省常用金額中ヨリ人民水災災窮

民撫恤等其他諸般ニ貸與スル金送限年
繳納スル者悉ク之ヲ準備額中ニ收入ス
ルヲ以テ理財課ヨリ其貸附ノ數ヲ具シ
テ國債寮ニ送付シ國債寮之ヲ清理シテ
本寮ニ送致スル者ニ據テ算出ス

第三節 旧藩存立ノ日旧來人民ニ貸與スル

金穀ノ首ニ其原數ヲ掲列シ各其既納未

納ヲ詳カニシテ之ヲ算出ス

第四節 高割貸附ハ維新ノ始太政官札ヲ

以テ旧藩ノ貢額ニ應シ之ヲ具人民ニ貸

附スルモノニシテ年々繳納ノ数ヲ算出ス

第五節 旧藩縣麾下ノ紙幣準備金ハ旧藩主ノ未納ト人民ニ貸附シテ年々徴收スヘキ者トノ二類アリ而シテ其貸付タル原数ハ紙幣寮ノ報告ヲ参照シ其既納未納ノ数ヲ算出ス

第七條 國債寮ノ報告ニ據リ毎一年家祿賞典祿支給変更一覽表并社寺遞減給一覽表ヲ製シテ卿輔ノ覽閱ニ供スル事務ヲ叙テ三

節トス

第一節 第一條第一節ニ同シ

第二節 家祿賞典祿支給変更ハ國債寮ノ報告ニ本ワキ其家祿ハ永世一代買受本祿外増祿年限祿等ヲ類別シ賞典祿ハ世襲終身限年嫡子祿等ヲ分テ其変更ハ合家貫屬轉付奉還除族等ニ係ル者ヲ區分シテ各府縣若テ算出ス

第三節 社寺遞減給ハ明治七年ヨリ後十年ヲ期シ逐年遞減收了スル者ニシテ其毎

年差減ノ數若于ヲ各府縣ニ分テ算出ス
本條祿給ハ明治七年一月一日ノ見在
數ヲ算計シテ之ヲ根據トシ以テ爾後
其多寡増減ヲ見ハス而シテ此ニ項ノ
祿給ハ毎年一月ヨリ十二月ニ至ルノ
貢采ヲ以テ其年ノ支給ニ充ルカ故ニ
之ヲ算スルニ會計年度ヲ用ヒス

第八條 紙幣租稅兩寮ノ報告ヲ據リ毎三月毎
一年各種証券印紙畧紙一覽表蚕種始諸印
紙鑑札一覽表清酒其外免許鑑札一覽表ヲ

製シテ御輔ノ覽閱ニ供スルモノ分テ四節
トス

第一節 第一條第一節ニ同キ

第二節 証券印紙畧紙ハ紙幣寮ノ製造スル
所ニシテ之ヲ租稅寮ニ付シテ地方ニ頒
賣スル者ヲ算ス

第三節 蚕種印紙生糸繭真綿等ノ印紙モ同
シク紙幣寮ヨリ租稅寮ニ付シテ之ヲ頒
布スル者ヲ算計ス

第四節 諸免許鑑札モ亦同シク人民ニ授付

シテ其業ノ允可ヲ証シ税ヲ收ムル者ニ
シテ其授付ノ数ト税入ノ額トヲ算出ス
第九條 内務省ヨリ送付スル驛遞寮ノ計簿ニ
據リテ毎三月毎一年ニ郵便功手端書紙各
封皮ニ覽表ヲ製シテ御輔ノ覽閱ニ供スル
事務ヲ分テ三節トス

第一節 第一條第一節ニ同シ

第二節 郵便功手端書各封皮ハ皆紙幣寮ノ
製造スル所ニシテ之ヲ内務省ノ驛遞寮
ニ付シ驛遞寮之ヲ各地ニ領賣スルモノ

ニシテ毎三月ノモノ後三月ヲ過キテ上
呈スルノ寫本ヲ内務省ノ送付ニ據リテ
之ヲ算計ス

第三節 郵便功手以下附ノ数ハ驛遞寮ヨ

リ各地ニ領布スルノ原數ニシテ其既ニ
領賣スルノ數ニアラス然シテ其收税ノ
如キハ年月ヲ論セス直ニ其收入ノ見數
ヲ計上スルモノナリ若シ其各年收入ノ
數ヲ分ニトセシ該寮検査寮ニ送付スル
所各地ノ領賣數ニ照シテ之ヲ考覈スヘ

シ故、検査寮ノ正算終ラ送付シテ付
テ之ヲ算シ、其數中郵便役所ニ給スル
手數科歩引等ハ之ヲ除算セス

第十條 前條開列スル所ノ諸表ニ據リ前年ニ
對照ニテ比較表ヲ製シ又諸印紙鑑札郵便
功手等各地景況一覽表ヲ製シテ御輔ノ覽
閱ニ供スル事務分テ三節トス

第一節 前條諸表中内外國債各種紙幣流通
國立銀行紙幣流通高貨幣貸附金穀家祿
賞典祿支給社寺進院給ノ八件前年比較

表ヲ作ルニ各年對照ノ法ヲ用ユ

第二節 此比較表ヲ製スル亦一部ニ付シテ
照合ノ印ヲ徴シ庶務課ニ於テ之ヲ製表
シ御輔ノ覽閱ニ供スル前條ニ同シ

第三節 証券印紙蝋種印紙生糸印紙賣買鑑
札諸釀造鑑札郵便券端言封皮日誌新聞
紙進送ノ數等其各地ニ頒賣下布ノ
收税ノ増減ヲ比較算當シテ各地實際ノ
景況ヲ見シ其一覽表ヲ作ル前節ニ同

第十一條 以上各種計表毎一年一

修正レテ本部一報 全書ヲ作り意見ヲ具

シテ課長ニ報知スル第二部ノ第五條ニ同

シ

第十二條 毎年合纂スルニ於テ計表ヲ川行公

布スル等ハ本課第一部ノ第九條ニ同シ

第五部

全國歳入出ノ實額ヲ結算精計シテ統

計表ヲ調理スルヲ掌管ス

第一條 常用ノ歳入出各科目ノ詳明ニシテ綜理

精算シテ統計表ヲ作爲シ脚輔ノ覽閱

スル事ヲ分テ九節ト爲ス

第二條 常用ノ歳入出ヲ精算スル各廳ヨリ

類ノ計表ヲ査査シ清查ヲ經記ス

本費ニ由ルモノハ一應ニ憑據ニ算

ラサル者アレハ綜理算計完結御輔ト虎

ノ期發定スル難シ故ニ始テ調理完マ

日ニ以テ御輔ノ閱覽ニ供スルモトス

第二節 歳入ヲ算計スル租税ノ租税寮ニ於

テ毎三月調理スル勘定帳其佗税行諸収

入ハ各廳ヨリ開申ノ帳簿ヲ検査寮ニ於

テ精査ニ精算表ヲ製シ御輔ノ覽閱ニ供

シ其言録京下府ニ於テ各内訳帳ヲ

添付シテ本令ニ由リテ回致スルモノニ憑

據シテ科目ヲ正シ毎一年會計ヲ添付

統計シ既ニシテ検査寮檢算編集ニテ送

致アル會計決算表ニ對照シ其差額ニ差

謬誤算ナキヤヲ檢シ稿本ヲ作テ照查ノ

爲一本課第一部ニ付ス

第三節 歳出ヲ算計スル院省使付縣ヨリ

省へ開申上達スル所ノ經費勘定帳及

ニ於テ検査表トスル精算表及

明細覽覽後記録寮ニ

ヨノ直。本寮ニ送致シ

然リト雖此ニ表ノ豊

タル各種費用ノ細目或ハ詳明ナル

モノアリ故ニ該廳添進ノ計簿小譯

モ同寮ノ回致ヲ受テ之ヲ照對檢査シテ

其費目ヲ明瞭ニシ毎一年會計ヲ彙集綜

算スル以下前節ノ如シ

第四節 入出ヲ比算シ又前年ノ収出ト本年

ノ収出トヲ較計シ収出各種ノ増減

ヲ明言シ得テスル以下亦前一節

ノ如シ

第五節 前節收支各種ノ科目ヲ類別ス

方リ一種ノモノニシテ具名稱ノ區々一

定ナラサルモノハ公文例規等ニ依リテ

之ヲ訂正シ若シ公文例規等ナクシテ濫

ニ荒掃改更シ得テ名稱アラハ女当ノ

名稱ヲ審案シ卿輔或ハ寮頭ノ決裁

ヲテ制定シ之ヲ一簿冊ニ登記シ置キ計

算統計ノ

カテ

ノ如シ

六節

金銀或ハ外國貨幣雜穀

法ハ別ノ詳具ス

第七節

收出及ヒ比較ノ三表ハ其稿本本課

第一節照査了リテ本部ニ還付アレハ

チ表表淨寫ノ爲メ庶務課第三部ニ致シ

寫了ノ後之ヲ校正シテ謄取原稿ト共ニ

卿輔ノ覽閱ニ供ス 表兼別具ス

第八節

卿輔一覽ノ後下附了レハ庶務課第

二部ニ送付シテ其表簿ヲ記録寮ニ送致セ

シ

第九節

統計表 爲スルニ原據トセ

諸表簿ハ積査算計全了スレハ簿

其表簿ノ件銘ヲ摘記シ之ヲ記録券ニ返

宛シ領收ノ證印ヲ徴スルヲ則トス

本條ハ常用ノ歳入歳出共科目ヲ細別

其入出ノ實ハ匯教ヲ詳明スルモ

ノ先

第十節

準備ハ收支ヲ詳明勾計シ統計表ヲ作

爲シテ卿輔ノ覽閱ニ供スル事務ハテ七

ト爲ス

第一節

準備ノ出ヲ算計スルモ非常ノ
因シク各廳ヨリ因申ノ帳簿檢査査察
後記録寮ヨリ回致ヲ得之ニ原キ精算
表出シルモノナレハ結算供閱ノ期豫定
スニ能ハス故ニ前ノ條第一節ノ例ヲ襲
フヘシ

第二節

收入ヲ算計スル各廳ヨリ因申スル
收入勘定帳檢査寮彙算シテ精算表ヲ製
シ却輔ニ供閱シ其記録寮ニ下附テレ
之ニ付ル内譯保計共ニ同寮ヨリ本寮

ニ附級スル表帳ニ原帳ニ各款類ヲ審別
シ毎一年會計ヲ總算統計シテ檢査寮ニ
製ノ會計決算表ニ照板ニ稿本ニ依リ
課第一部ノ照査ニ付スル前ノ條第一節
ノ如シ

第三節

支出ヲ算計スル各廳ヨリ因載送致
スル所ノ經費勘定帳ヲ以テ檢査寮檢算
表出スル精算表及ヒ追算表却輔一覽ノ
後記録寮ヨリ之カ内譯保ヲモテ本
寮ニ回致スルモノ
因憑テ付テテ

目ツ詳明ニ各款ノ分シテ一年

會計ノ彙集終算シ以下前節ノ如ク

第四節 收支ノ額ヲ比算シ又前年ノ支出ト

本年ノ支出トヲ較計 其贏縮ヲ明ニス

ル等前一條第四節ノ如ク

第五節 支出各種ノ科目ヲ審別スル方及

古金銀外國貨幣雜穀等折算ノ法

一條第五六兩節ヲ參考スヘシ

第六節 支出比較ノ三表稿平本課第一節

查了ノ事又其長浮寫ノ息ノ庶務課第

三、四、一付ニ及ハルノハル後

表ヲ記録送致スル等前一條第七

兩節ノ例ノ如ク

第七節 記録送致ノ表簿ハ統計參替

畢リ之ヲ同寮ニ返免スル前一條第九

ノ如ク

本係ハ準備金穀ノ又其款類ヲ審別

シ其支店ノ比較ニ將テ増減ノ多寡ヲ

查明覈計シ其收支ノ實況ハ後ヲ詳明

シ且ツ其一條ノ收ノ計者ト併

壹圓銀	洋銀	洋金	英貨	ルール	南京錢	香港錢	雜穀	荏	小麥	菜種
壹圓	壹串	同上	壹磅	壹ルル	壹枚	同	同上	同上	一石	同上
金壹圓	金壹圓	同上	金四圓八拾八錢	金七拾五錢	金五厘六				米壹石	
重量掃	重量支	重量支	同上箕	同上箕	同上箕				六百目以上才壹升トス	
那米	那米	那米	那米	那米	那米				百六拾目トレ四百目ヲ以テ米壹升トス	
壹貫貳百目ヲ以テ米壹升トス	壹貫貳百目ヲ以テ米壹升トス	壹貫貳百目ヲ以テ米壹升トス	壹貫目ヲ以テ米壹升トス	二割減即チ八合ヲ以テ米壹升トス	五合摺即チ壹				三割減即チ七合ヲ以テ米壹升トス	
四石トス										

雜穀	荏
同上	同上

